

長期療養児のケアに携わる看護婦の役割認識の 調査のための質問紙作成 (分担研究:長期療養児の心理的問題に関する研究班)

及川郁子¹、舟島なをみ²

要約:病院や長期療養施設における慢性疾患をもつ子どものケアの担い手は看護婦であるが、看護婦が具体的にどのような活動を行ない、どのような問題点をもっているのか系統的に調査したものは少ない。そこで今年度は長期療養を必要とする子どもとその家族に焦点をあてて看護分野の文献検索を行い、その結果を基に、次年度に向けて長期療養児のケアに携わる看護婦を対象にした調査質問紙を作成した。

見出し語:長期療養児、看護婦、役割認識、質問紙調査

長期入院中の子どものストレスや問題について看護の分野で取り上げられるようになってすでに久しく、多くの報告が行われている。それらの内容を見てみると、事例を通しての入院中の看護展開が最も多く、長期入院による小児への影響を考慮しての成長・発達、遊びや学習の援助、養護・保育的側面からの生活の工夫や援助とその評価に関する報告が主なものであった。また子どもの母親や家族に焦点を当てたものも多く、親の病気・入院への理解やそれに伴う不安への精神的支援、育児不安などへの援助などを通して親の心理的变化を事例的に検討したものや、退院指導などに焦点をあてているものがほとんどであった。長期入院

児を対象とした報告は、疾患の種類、年齢などは多岐にわたっていた。

一方、統計的に調査したものとして、石井(1991)らは、長期療養施設を含む慢性疾患児の生活管理に携わる看護婦の意識調査を行っている。その中で「長期入院児の看護を進めていく上で困難に感じることを尋ね、子どもの発達段階特有の問題と対応の困難さを指摘している。

また木村(1988)らは、1カ月以上入院している子どもに対する看護婦の意識と対応を調査し、家族の問題や入院児の生活の在り方についての問題とその対応が十分でないことを指摘している。

これらの結果は、長期入院児やその家族の問題

¹聖路加看護大学 (St. Luke's College of Nursing)

²埼玉医科大学短期大学 (Saitama Medical School Junior College)

と対応の必要性を示唆しているものである。

このように長期入院中の子どものケアに対する看護婦の問題意識は高いにもかかわらず、これら問題に携わる看護婦自身が看護業務の中でどのように実践し、解決していこうとしているのかを系統的に調査したものは少ない。

そこで今回、看護活動に焦点を当てて、看護業務に対する役割認識と、看護活動を阻む問題について検討をするための質問紙を作成し、来年度に向けて調査を実施することとした。

[調査目的]

長期療養児に対する看護が現在どのように実践されているのか、またどのような問題があるのかを明らかにし、より良いケア方法を検討する。

[調査内容]

次の点から質問紙を構成している。

1) 看護婦が実際行っている業務内容と、他職種との業務分担がどのように行われているかを、日常生活ケア、子どもや家族とのコミュニケーション、心理・社会面の援助、治療・療養指導などの側面から69項目を選定した。

2) 看護婦がより良く働くためには、どのような職業的満足感をもっているか明らかにすることは重要なことである。「病院勤務の看護婦を対象にした職業への満足度」の測定尺度として、

L. Stampsらにより開発された質問紙を、尾崎ら(1988)が日本用に訳しているものを使用することにした。この質問紙は①給料、②専門職としての自律、③看護業務、④看護管理、⑤看護婦間相互の影響、⑥職業的地位、⑦医師・看護婦関係の

7つの構成要素で48項目からなっている。

3) 看護婦が現在の看護業務を行うに当たり、どのような点に問題や困難さを感じ、問題解決のためにどのようなニーズをもっているのかを明らかにするために、子どもや家族の理解、ケアプラン作成、援助技術、看護体制、看護管理、自己啓発などの側面から38項目を選定した。

4) その他に、看護業務に影響を及ぼすであろう、勤務病棟の状況や看護体制、看護婦自身の背景などについても質問している。

[調査方法]

対象者は、長期療養児が入院している国立療養所や小児専門病院、大学病院などの看護婦である。直接または郵送による質問紙の配布、個々の返送による回収を検討している。

引用文献

1. 石井哲夫他、慢性疾患児の生活に携わる看護婦の意識調査、平成2年度厚生省心身障害研究班「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」報告書、p325-p332.
2. 木村留美子他、長期入院児に対する看護婦の意識と対応、小児看護、11(6)、p772-777、1988.
3. 尾崎フサ子他、看護婦の職務満足質問紙の研究—Stampsらの質問紙の日本での応用—、大阪府立看護短大紀要、10(1)、p17-p24、1988.

【質問紙】

1. 下記の項目について、最も関わる割合の高い職種の番号を一つ選び、○で囲んで下さい。

	医 師	看 護 婦	助 手	保 母	指 導 員	蘇 心 理 士	そ の 他	註 し な い
1. 家庭での食事に関する情報の収集	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 病状に合った食事内容・方法の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 食行動の自立やマナー獲得のためのしつけ	1	2	3	4	5	6	7	8
4. 食事療法が必要な場合の教育や説明	1	2	3	4	5	6	7	8
5. 配膳・下膳	1	2	3	4	5	6	7	8
6. 楽しい食事のための環境作り	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 自分で食事が食べられない子どもの食事介助	1	2	3	4	5	6	7	8
8. 飲水・食事量・食事状態の観察と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
9. 食事への不満や偏食、隠れ食いなどの発見や対応	1	2	3	4	5	6	7	8
10. 食事の援助方法の評価	1	2	3	4	5	6	7	8
11. 家庭での睡眠に関する情報の収集	1	2	3	4	5	6	7	8
12. ベットメイキング	1	2	3	4	5	6	7	8
13. 安眠のための衣服の調整や確認	1	2	3	4	5	6	7	8
14. 午睡を促す	1	2	3	4	5	6	7	8
15. 安眠のために本を読むもしくはお話しをする	1	2	3	4	5	6	7	8
16. 睡眠時間と睡眠状態の観察と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
17. 眠れない子どもの発見や対応方法の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
18. 睡眠の援助方法の評価	1	2	3	4	5	6	7	8
19. 家庭での清潔に関する情報の収集	1	2	3	4	5	6	7	8
20. 病状に合った清潔方法の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
21. 入浴・清拭・シャワー・洗髪準備と実施	1	2	3	4	5	6	7	8
22. 子どもの全身の清潔状態の観察と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
23. 皮膚に問題がある子どもの発見と対応	1	2	3	4	5	6	7	8
24. 子どもの清潔行動の発達と査定	1	2	3	4	5	6	7	8
25. 清潔の援助方法の評価	1	2	3	4	5	6	7	8
26. 家庭での排泄に関する情報の収集	1	2	3	4	5	6	7	8
27. 病状に合った排泄方法の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
28. トイレに行けない状態の子どもに尿便器をあてる	1	2	3	4	5	6	7	8
29. 排泄物の性状、排泄回数、排泄状態の観察と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
30. 便秘・尿失禁・夜尿などの発見と対応	1	2	3	4	5	6	7	8
31. 排泄の援助方法の評価	1	2	3	4	5	6	7	8
32. 子どもに私物の整理について教える	1	2	3	4	5	6	7	8
33. 生理や精通について教える	1	2	3	4	5	6	7	8
34. 日課や規則について子どもと話し合う	1	2	3	4	5	6	7	8

	医 師	看 護 婦	助 手	保 母	指 導 員	蘇 心 理 士	そ の 他	訪 し な い
35. 家庭での遊び・学習に関する情報の収集	1	2	3	4	5	6	7	8
36. 病状に適した日常生活の調整	1	2	3	4	5	6	7	8
37. 子どもの発達、好み、病状に合わせた遊びを考える	1	2	3	4	5	6	7	8
38. 子どもと一緒に遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7	8
39. 病棟での学習の援助	1	2	3	4	5	6	7	8
40. 四季の行事の計画と実施	1	2	3	4	5	6	7	8
41. 子どもの遊び・学習状態の観察と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
42. 学習の遅れや不安のある子どもの発見と対応	1	2	3	4	5	6	7	8
43. 他児と一緒に遊べない(うまくいかない)子どもの 発見と対応	1	2	3	4	5	6	7	8
44. 遊び・学習の援助方法の評価	1	2	3	4	5	6	7	8
45. 遊び・学習に関する他職種との連絡調整	1	2	3	4	5	6	7	8
46. 子どもの入院・治療・処置に対する理解状況の観察	1	2	3	4	5	6	7	8
47. 子どものストレス状態の把握	1	2	3	4	5	6	7	8
48. 子どもと家族との関係性の把握	1	2	3	4	5	6	7	8
49. 家族の入院・病気に対する理解状況の把握	1	2	3	4	5	6	7	8
50. 家族の子どもの入院に対する不安の観察	1	2	3	4	5	6	7	8
51. 面会が少ない場合の面会の必要性の説明と促し	1	2	3	4	5	6	7	8
52. 子どもの悩み・不安の相談相手になる	1	2	3	4	5	6	7	8
53. 家族の悩み・不安の相談相手になる	1	2	3	4	5	6	7	8
54. 子どもの心理社会問題の発見と対応方法の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
55. 子どもの心理社会問題に関しての他職種との連絡	1	2	3	4	5	6	7	8
56. 子どもに対する心理的アプローチの評価	1	2	3	4	5	6	7	8
57. 子どもへ病状や経過を説明する	1	2	3	4	5	6	7	8
58. 家族へ病気や経過を説明する	1	2	3	4	5	6	7	8
59. 疾患に伴う症状の観察方法の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
60. 身体症状の観察と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
61. 定期的な身長・体重などの測定と記録	1	2	3	4	5	6	7	8
62. 機能訓練や療養指導の方法や内容の決定	1	2	3	4	5	6	7	8
63. 子どもへ機能訓練や療養内容を説明する	1	2	3	4	5	6	7	8
64. 家族へ機能訓練や療養内容を説明する	1	2	3	4	5	6	7	8
65. 機能訓練や療養指導を実施する	1	2	3	4	5	6	7	8
66. 機能訓練や療養指導実施状況の問題の発見と対応	1	2	3	4	5	6	7	8
67. 機能訓練や療養指導方法の評価	1	2	3	4	5	6	7	8
68. 機能訓練や療養指導に関する他職種との連絡調整	1	2	3	4	5	6	7	8
69. 家族がもつ子どもの療養の問題に対して相談にのる	1	2	3	4	5	6	7	8

II. 次の項目は看護婦として働いていてどんな満足感をもっているかを尋ねています。
あなたの気持ちを最もよく表している番号に、○を付けて下さい。

	全	お	や	ど	や	お	全
	く	お	や	ち	や	お	く
	そ	む	そ	ら	そ	む	そ
	う	ね	う	と	う	ね	う
	だ	そ	だ	も	で	そ	で
		う		い	は	う	は
		だ		え	な	で	な
				な	い	は	い
				い	な	い	い
1. 現在の給料に満足している	1	2	3	4	5	6	7
2. この病院で働いていると時間はすぐすぎてしまう	1	2	3	4	5	6	7
3. 職場における看護職員は忙しい時、お互いに助け合い協力している	1	2	3	4	5	6	7
4. この病院における看護職員の給料の増加率に私は満足している	1	2	3	4	5	6	7
5. 私の印象であるが、この病院のほとんどの看護婦は仕事がきちんと系統だてて行われることを好む	1	2	3	4	5	6	7
6. 私の病棟では、医師は看護職員に協力的ではない	1	2	3	4	5	6	7
7. 必要以上に、また欲する以上に細かく監督されていると私は感じる	1	2	3	4	5	6	7
8. 私を除いて、この病院での多くの看護職員が給料に不満をもっているという印象を私はもっている。	1	2	3	4	5	6	7
9. たとえ私が他の病院でよりたくさんの給料をもらったとしても労働条件からこの病院で働きたい	1	2	3	4	5	6	7
10. 新採用者は私の病棟にすぐに溶け込めないでいる	1	2	3	4	5	6	7
11. もう少し仕事量が少なかったら、もっと良い仕事ができると思う	1	2	3	4	5	6	7
12. この病院の管理と看護業務の日常問題との間に大きなギャップある	1	2	3	4	5	6	7
13. 時折私は矛盾していることを言ってくるボス（詰所の中で）がいるように感じる	1	2	3	4	5	6	7
14. この病院では、看護職員に期待しているだけあって、私達は仕事に見合った給料をもらっている	1	2	3	4	5	6	7
15. 自分が行っている仕事は本当に大切なことをしているといつも思っている	1	2	3	4	5	6	7
16. 私の職場において、いろんなレベルの看護職員の間で、すばらしいチームワークと協力ができている	1	2	3	4	5	6	7

全	お	や	ど	や	お	全
く	お	や	ち	や	お	く
そ	む	そ	ら	そ	む	そ
う	ね	う	と	う	ね	う
だ	そ	だ	も	で	そ	で
	う		い	は	う	は
	だ		え	な	で	な
			い	い	は	い
					な	
					い	

17. 看護業務において、私は管理の仕事としてのペーパーワークにたくさんの時間をかけるが、それは妥当なことであって、そのために患者に迷惑をかけているとは思わない 1 2 3 4 5 6 7
18. この病院では、看護職員に向上への機会がたくさんある 1 2 3 4 5 6 7
19. 私の病棟では、看護婦と医師の間で十分なチームワークがとれている 1 2 3 4 5 6 7
20. 看護業務において、私の上司がほとんどの決断を行い、仕事における決断は私にはない 1 2 3 4 5 6 7
21. この病院では看護婦のペーパーワーク（記録、事務の仕事など）が多すぎる 1 2 3 4 5 6 7
22. 私は自分の行っている仕事（内容、質、やり方）に満足している 1 2 3 4 5 6 7
23. 看護業務における看護職員は私の好むような親しみなど少ない 1 2 3 4 5 6 7
24. 私には他の看護職員と患者ケアに関する問題を話し合う十分な時間と機会がある 1 2 3 4 5 6 7
25. 看護職員は管理の決定に参加するための機会がたびたびである 1 2 3 4 5 6 7
26. この病院ではえこひいきなどから看護職員がより高い給料を得ることは可能である 1 2 3 4 5 6 7
27. 私は一生懸命行っている仕事に結局は何の意見も見いだせないでいる 1 2 3 4 5 6 7
28. 病棟では階級意識が強くて看護職員のための交流が少ない 1 2 3 4 5 6 7
29. 他の人に私がどんな仕事をしているか誇りをもって話せる 1 2 3 4 5 6 7
30. この病院は、看護職員を含めて、雇用厚生についてよく考えてくれていることは確かである 1 2 3 4 5 6 7
31. 私は時折、専門職としての看護につながらないようなことを仕事で要求されることがある 1 2 3 4 5 6 7
32. 他の病院の看護職員から得た情報でも、この病院ではかなりよい給料を払っている 1 2 3 4 5 6 7

	全 く そ う だ	お お む ね そ う だ	や や そ ら と だ	ど ち ら と も い え な い	や や そ う で は な い	お お む ね そ う で は な い	全 く そ う で は な い
33. この病院での管理者側の決定は、患者ケアに関して干渉し過ぎる	1	2	3	4	5	6	7
34. 私がやりたいと思っているような患者ケアをするためには時間が足りない	1	2	3	4	5	6	7
35. 一般にこの病院では、私の業務を含めて、患者のニーズを優先順位で系統だてていないと感じる	1	2	3	4	5	6	7
36. 私の病棟の看護職員は、「家族的ムード」が満ちていると思えない	1	2	3	4	5	6	7
37. もっとたくさんの時間が、それぞれの患者に対してあったならもっと良いケアができるだろう	1	2	3	4	5	6	7
38. 全般的に、私はこの病院で系統だてで行われている看護方法に満足している	1	2	3	4	5	6	7
39. 一般的にこの病院の医師は看護職員が行っていることを理解し、評価している	1	2	3	4	5	6	7
40. この病院で看護職員がかなりの給料をもらうようにする唯一の方法は知識を作ることであり、場合によってはストライキをすることであろう	1	2	3	4	5	6	7
41. もし私にもう一度やり直すチャンスがあったとしても、再び看護の道にすすむだろう	1	2	3	4	5	6	7
42. この病院の看護職員はお互いにながみあっている	1	2	3	4	5	6	7
43. 私は病院の方針・計画などの間接的参加ができる	1	2	3	4	5	6	7
44. 入院費の高騰を思うとき、看護職員の給料をそのまま据え置くようなあらゆる努力をすべきである	1	2	3	4	5	6	7
45. 私の仕事はいろいろな技術とか知識を必要としない	1	2	3	4	5	6	7
46. 全般的に、看護管理者は日常の諸問題や手順について職員と相談する	1	2	3	4	5	6	7
47. 適時、重要な決定を下す自由が私の仕事にある。さらに監督者は私を支えてくれる	1	2	3	4	5	6	7
48. この病院では給料を上げることが必要である	1	2	3	4	5	6	7

Ⅲ. あなたが病棟で慢性疾患の子供の看護をするとき、以下の項目について、どの程度問題や悩みをお持ちですか。その程度にしたがって、1～4の中から選んで○を付けて下さい。

	な い	あ ま り な い	あ る	非 常 に あ る
1. 子どもの発達や行動を理解する	1	2	3	4
2. 親のストレスや不安を理解し、対応する	1	2	3	4
3. 親子関係や家族の問題を探る	1	2	3	4
4. 子どもに合った遊びや学習、行事の計画を立てる	1	2	3	4
6. 子どもと話をする	1	2	3	4
7. 子どものケアについて、他の医療職員と話し合い協力を求める	1	2	3	4
8. 親に疾病や治療、看護について説明し、理解を求める	1	2	3	4
9. 子供に退院のための指導を行う	1	2	3	4
10. 子供の不安や悩みの軽減方法を考え、実施する	1	2	3	4
11. 親とコミュニケーションをとる	1	2	3	4
12. 子供に疾病や治療、看護について理解を求める	1	2	3	4
13. 子供の症状や訴えを理解する	1	2	3	4
14. 子供の日課や生活の仕方について計画する	1	2	3	4
15. 子供のストレスに対処する	1	2	3	4
16. 子供に適切な受け持ちやチームについて話し合う	1	2	3	4
17. 子供や親に必要な社会資源を紹介したり、活用する	1	2	3	4
18. 親の相談に応じたり、指導をする	1	2	3	4
19. 子どもの安楽を保つ	1	2	3	4
20. 病棟が人手不足である	1	2	3	4
21. 病棟の設備、機器が不備である	1	2	3	4
22. 無理な業務分担や勤務の条件が悪い	1	2	3	4
23. 不適切な看護体制がとられている	1	2	3	4
24. 記録や事務整理に時間が取られている	1	2	3	4
25. ベット・サイドケアの時間がとれない	1	2	3	4
26. 退院後の継続看護に結びつかない	1	2	3	4
27. 看護婦以外の他の医療職員の協力がえられない	1	2	3	4
28. 看護婦以外の他の医療職員との役割分担が明確でない	1	2	3	4
29. 慢性疾患看護の専門の指導者や経験者が少ない	1	2	3	4
30. 看護以外の慢性疾患の専門の指導者や経験者が少ない	1	2	3	4
31. 慢性疾患の専門知識や技術が不足している	1	2	3	4
32. 参考書や資料が少ない	1	2	3	4
33. 子供への関心が沸かない	1	2	3	4
34. 親は苦手で煩わしいと思う	1	2	3	4

	な い	あ ま り な い	あ る	非 常 に あ る
35. 自分の関心や興味が少ない	1	2	3	4
36. 小児看護の経験が不足している	1	2	3	4
37. 自分の健康状態や疲労が影響している	1	2	3	4
38. 学習や研修の方法がわからない	1	2	3	4

IV. あなたが現在働いている病院・病棟についてお尋ねします。

1. あなたの病院は

1. 国立系一般病院 2. 国立療養所 3. 大学病院
4. 小児専門病院 5. その他 ()

2. あなたの病棟は

1. 小児のみの病棟 2. 小児の中に一部大人が入院している病棟
3. 大人のなかに一部小児が入院している病棟
4. その他 ()

3. あなたの病棟での慢性疾患患児は

1. 慢性疾患専門の病棟に入院している
2. 急性疾患と半々くらいである
3. ほとんどが急性疾患の中に入院している
4. その他 ()

4. 病棟の病床数 () 床

5. 病棟の看護類別

- 基準看護 1. 特3類 2. 特2類 3. 特1類 (I) 4. 特1類 (II)
5. 基本看護 (I) 6. 基本看護 (II)
7. 基準看護以外
8. その他 ()

6. 病棟の看護体制

1. チームナーシング 2. 機能別 3. 部屋別受け持ち
4. プライマリーナーシング 5. 1と2の併用 6. 1と3の併用
7. 1と4の併用 8. 2と3の併用 9. 2と4の併用
10. その他 ()

7. 看護婦、准看護婦の勤務時間と人数（普通日）、一人当たりのおよその受け持ち患児数

- | | | | | | |
|---------|---------|------|------|-----|------|
| 1. 日勤時間 | (時～ 時) | 看護婦数 | (人) | 患児数 | (人) |
| 2. 准夜勤 | (時～ 時) | | (人) | | (人) |
| 3. 深夜勤 | (時～ 時) | | (人) | | (人) |
| 4. 早番 | (時～ 時) | | (人) | | (人) |
| 5. 遅番 | (時～ 時) | | (人) | | (人) |

8. 病棟の職員構成と人数（いない場合は0とお書き下さい）

- 看護婦 ()人
准看護婦 ()人
看護助手 ()人
保母 ()人
指導員 ()人
ケースワーカー ()人
臨床心理士 ()人
その他の職員の種類と人数 ()

9. あなたの病棟にはボランティアの方が来ますか

1. はい→(週 回)、(1回 時間)
主に何をしていますか()
2. いいえ

10. 養護学校の有無 1. 有り 2. 無し

11. 院内学級の有無 1. 有り 2. 無し

12. 病棟内に学習室を設けていますか

1. 専用の学習室がある 2. 他の目的と併用ではあるが一応ある
3. ない

13. 慢性疾患患児のための日課を設けていますか。 1. はい 2. いいえ

14. 慢性疾患患児の面会について

(1) 面会の人の制限はありますか。

1. 制限していない
2. 制限している→どのように()

(2) 面会時間はどのようにしていますか。

1. 時間の制限はない
2. 制限している→どのように()

15. 泊まり込みの付き添いをしている患児がおりますか
 1. いる→どのような病気、年齢、理由 ()
 2. いない
16. 親・家族が患児と共に過ごしたり、病気理解や教育のために泊まり込みができる、特別な部屋が病棟内にありますか。
 1. 有る→利用頻度はどのくらい、どのような患児に ()
 2. ない
17. 退院後の継続看護のシステムはとられていますか
 1. 行われている→どこで、誰によって ()
 2. 行われていない
18. 慢性疾患患児のための看護記録を作成していますか
 1. 作成している
 2. 作成していない

V. 最後にあなたご自身のことについてお尋ねします。

1. あなたが病棟で受け持つ慢性疾患のうち、最も多いもの一つだけ選んで下さい。
 1. 喘息などの呼吸器疾患 2. 慢性腎疾患 3. 悪性新生物
 4. 慢性心疾患 5. 内分泌疾患 6. 膠原病
 7. 糖尿病 8. 先天性代謝異常 9. 血友病等血液疾患
 10. 筋肉・神経疾患 11. 心身症
 12. その他 ()
2. あなたの年齢 () 歳
3. 性別 1. 男 2. 女
4. 臨床経験年数 () 年
5. 小児看護の経験年数 () 年
6. 小児慢性疾患のケアの経験は () 年
7. 現在の職位・役職は
 1. スタッフナース 2. 主任 3. 婦長 4. その他 ()

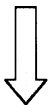
8. 看護に関する教育背景

1. 准看護学校（衛生看護高校卒）
2. 看護専門学校（高等看護学校卒、進学課程含む）
3. 短大卒
4. 大学卒
5. その他（ ）

長期に療養している子ども達の看護について、ご意見などありましたらご自由にお書き下さい。

☆長い時間、ご協力いただきありがとうございました。

注：この質問紙はプレテストを実施していないため、プレテストの結果によっては内容を修正した後に本調査を行う予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:病院や長期療養施設における慢性疾患をもつ子どものケアの担い手は看護婦であるが、看護婦が具体的にどのような活動を行ない、どのような問題点をもっているのか系統的に調査したものは少ない。そこで今年度は長期療養を必要とする子どもとその家族に焦点をあてて看護分野の文献検索を行い、その結果を基に、次年度に向けて長期療養児のケアに携わる看護婦を対象にした調査質問紙を作成した。